

65周年記念山行 丹沢大縦走その2

(記録) 福澤 卓三

期間

平成26年5月23日(金)～25日(日)

参加メンバー

山本 彰、金井 良一、福澤 卓三、鈴木 輝明

コースタイム

5月23日

渋沢駅から大倉バス停(横山先輩の車) 20:45(着) 23:00 3:00(発)

～大倉尾根雑事ノ平 23:40(着) 幕営仮眠

5月24日 雑事ノ平 3:45(発)～花立小屋 5:55(着)～塔ノ岳 6:45

(着)～丹沢山 8:15(着)～蛭ヶ岳 10:40(着)～臼ヶ岳 12:30(着)

～檜洞丸 14:50(着)～犬越路避難小屋 17:15(着)

歩行時間 13時間30分 鈴木合流

5月25日 犬越路避難小屋 3:45(発)～大室山 5:20(着)～加入道山 7:05

(着)～畦ヶ丸 9:45(着)～西丹沢自然教室 12:45(着)

5月23日

渋沢駅に22時に待ち合わせ、支援隊の横山先輩の車で大倉まで送ってもらった。当初歩いて行くつもりだったので助かった。大倉からキャップライトをつけて1ピッチほどで雑事場平につきビバークサイトに良いところがあったので、天幕を張り仮眠した。

5月24日

昨夜は3人とも疲れがありよく眠れたが、登山者の足音で目がさめたりしながら、2時半起床。各自持参の朝食を軽くとって、3時45分キャップライトをつけて出発。大倉尾根をキャップライトをつけて歩くと若いころの夏と冬の合宿前のボッカ訓練を思い出す。寝ながら歩いたことや背中

がすれて痛かったこと、あれから何十年、あのころ今の自分は想像できなかっただろう。元気でここにいることに感謝する。1ピッチも歩くと明るくなりキャップライトも不要になる。通いなれた大倉尾根の掘割を過ぎ花立につく。このあたりはよく整備されているが、階段状になったところは少し登りづらい。山桜なんか見ながら順調にピッチを稼ぎ塔ノ岳に到着。今回も天気がよく富士山がきれいに見える。気持ちいい時間を過ごす。ここまでいいコースタイムで来ている。

丹沢山までの道すがらシロヤシオが満開でとてもきれいである。途中富士山とこの花がマッチした場所があり記念撮影をした。この時期には、あまり丹沢にはきていないので新鮮である。今が一番いい時期かもしれない。山桜もこのあたりは見ごろである。

塔ノ岳と往復する登山客が大勢いた。このコースなら簡単に往復できる。丹沢山の頂上には1ピッチと少しで到着。久しぶりにきた頂上はきれいに整備されていて看板やベンチも立派である。以前のイメージとは違い国立公園のせいなのかと思った。登山客も大勢いた。



シロヤシオと富士山



丹沢山山頂

ここから蛭ヶ岳までは、アップダウンがあるがそれほど高低差はない約2ピッチ半で蛭ヶ岳に到着。ここも広くて見晴らしの良い頂上である。天気が良いので気持ちよく縦走しているが、少し暑さにまいった。



蛭ヶ岳頂上



臼ヶ岳から蛭ヶ岳

ここからミカゲ沢の頭の手前まで長くて急峻な下りがあり臼ヶ岳まではなだらかに下り、臼ヶ岳から金山沢乗越までは最後の下りがあり、蛭ヶ岳から3ピッチも下ったことになる

檜洞丸までは、本日最後の登りである。高度差約300mを1ピッチほどひたすら頑張って登る。頂上直下の青ヶ岳山荘をすぎると、檜洞丸の頂上である。



檜洞丸の頂上

「もう登りはないな」なんて確認して、これから犬越路避難小屋をめざして樹林帯の中を進んでいくが、うんざりするほどタラタラと長い。明日の登りが心配になってくる

鈴木が今夜から合流するので、声が聞こえないかなと、ヤッチョのコールをしたら、コールが返ってきた。避難小屋には先客がいて、だいぶ飲んでできあがっていた。半分開けてくれるように頼んだが、あいているところを使ってくれという。マナーが悪すぎる。こんな連中と一緒にいるのは気

分が悪いので、ベランダに幕を張る。天幕のほうが気楽で格段いい。それにしてもこんなにマナーの悪い連中がまだいたのか。鈴木があげてくれたビールとうまいこと。うまいこと。元気回復。快適な夜である。

5月25日

本日も2時半起床。今朝も山本得意のうどんである。疲れていてもうまい。天気もいいので、撤収も楽である。3時45分キャップライトをつけて出発。やはり朝方は、疲れが回復している。昨日の下りの登り返しも、それほどきつくはない。途中で雲海があまりにもきれいなのでカメラをだして撮影した。



大室山の途中の雲海



大室山への稜線（あと300m）

景色が予想外のことが多く、ときどき一瞬どここの山にいるのかわからなくなる時がある。丹沢は本当にいい山だということを再認識した。スタミナを消費していないので、意外と楽に大室山へ続く稜線にでたが、頂上はカットして加入道山へむかう。それにしてもここは平原になっていて整備状況も素晴らしく非常に良いところである。こんな風景があるなんて思ってもいなかった。

加入道山をすぎ白石峠あたりからなだらかでアップダウンも少なく、ひたすら畦ヶ丸をめざして樹林帯の中を進んだ。ようやく畦ヶ丸についてホッとした。



加入道山の頂上



蛙ヶ丸の頂上

下りは最初急な斜面を下るのが長くて、このルートに登るのは大変だと思った。途中から沢すじを下るのだが、気がせくのかいつも長く感じる。沢の音が聞こえ出すがなかなかつかない。河原に出ても疲れているせいか長く感じた。西自然教室についたところバスが出たあとで、軽くビールを飲んでうちあげた。